

第2章 機能を考慮した医療提供施設の整備目標

第1節 がん対策

【現状と課題】

現 状

がん対策は、平成25年3月に策定された「愛知県がん対策推進計画（第2期）」に基づき推進しています。

1 がんの患者数等

- 悪性新生物による死亡数（人口10万対死亡率）は、平成22年は1,454人（236.5）平成23年は1,423人（230.7）、平成24年は1,505人（243.5）（*愛知県平成24年18,102人（233.9））と増加傾向にあり、平成23年における総死亡の29.0%を占めています。（表2-1-1）
- がん登録によれば、平成20年の各部位のがん罹患状況は、男性で、肺、胃、大腸、前立腺、肝臓の順に多く、女性は、乳房、大腸、胃、肺、子宮、肝臓の順となっています。（表2-1-2）

2 予防・早期発見

(1) 予防

- がんについて正しい知識を持ち、喫煙や食事、運動といった生活習慣とがんの発症に関連があることや、適切な生活習慣が予防に寄与することを知り、主体的に生活習慣の改善に努めることで、がんの罹患数を抑えることができます。
- 喫煙率は男性36.6%、女性6.9%です。（平成22年特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析（愛知県））
- 県薬剤師会では禁煙をしたいと思っている人を応援する禁煙サポート薬剤師の養成研修を行い禁煙サポート薬局の推進を図っています。当医療圏では平成25年5月31日現在、禁煙サポート薬局は36薬局あります。
- 県では、受動喫煙防止対策を推進するため、受動喫煙防止対策実施施設の認定制度を行っています。当医療圏では平成25年12月31日現

課 題

愛知県がん対策推進計画（第2期）に掲げられている目標値達成に向け、圏域内で取り組んでいく必要があります。

- がんの発症が、喫煙、食生活や運動などの生活習慣に深く関わっており、がんの予防において、適切な生活習慣を維持すること重要性について県民の理解が一層広まるよう、知識普及に努める必要があります。
- 喫煙率を下げするため、喫煙者への禁煙支援が必要です。
- 研修会等を実施し、さらに禁煙サポート薬局を拡大していく必要があります。
- 喫煙者だけでなく、周囲の者に対しても健康被害が及ばないよう、受動喫煙防止対策実施施設の増加が望まれます

在、1,654の施設が実施施設として認定されています。

(2) がん検診の受診率及び精度管理の向上

- がんの早期発見のため、適切にがん検診を受診することが重要ですが、平成 23 年度のがん検診の受診率は、胃がん検診 7.7%、大腸がん検診 19.0%、乳がん検診 24.8%、肺がん検診 31.0%、子宮がん検診 24.6%となっています。(表 2-1-3)

○ 「愛知県がん対策推進計画（第2期）」では、がん検診受診率の目標値を、胃がん、大腸がん、肺がんは40%（受診率算定対象年齢：40歳以上69歳まで）、乳がんと子宮がんは、50%（受診率算定対象年齢：乳がん検診は40歳以上69歳まで、子宮がん検診は20歳以上69歳まで）と設定しているため、地域と職域が連携した健診の受診勧奨が必要です。

- 特に胃がん、大腸がん及び子宮がんは県平均と比べ検診受診率が低いため、住民に受診を勧奨する必要があります。

○ 乳がんと子宮がんは、比較的若い年代で罹患するとともに、女性特有の心理的な制約が受診率に影響していると考えられること、また、早期発見・早期治療により生存率が大幅に改善するため、検診や治療を受けやすい環境を整備していく必要があります。

(3) がんの発生状況の把握

- がんの予防等に関する啓発や医療機関等における医療水準の向上等のためにがんの罹患状況を正確に把握する必要があります。
- 愛知県悪性新生物患者登録事業としては、平成 22 年度 7 病院、3 診療所から 1,490 件の届出がありました。

- がんの罹患状況や生存率等を正確に算出するためには、より多くの医療機関からのがん登録の届出や死亡情報の集積が必要であるため、各医療機関に届出を勧奨していく必要があります。

3 医療提供体制

- 当医療圏には国が指定する地域がん診療連携拠点病院はありませんが、市立半田病院が、平成22年6月1日から愛知県が指定する「がん診療拠点病院」に指定されています。
- 主ながんの手術機能について、平成24年度の手術件数が10件以上の病院数は、胃は5病院、大腸は6病院、乳腺は6病院、肺は1病院、子宮は1病院、肝臓は1病院となっています。(表 2-1-4)
- 抗がん剤を用いて治療にあたる化学療法を行っている病院数は、胃は10病院、大腸は10病院、乳腺は8病院、肺は6病院、子宮は4病院、

- 今後、地域のがん診療の拠点病院として、国の指定が望まれます。

○ 手術症例数が少ない専門的手術機能については、機能を有する医療機関との連携を図る必要があります。

- 安心かつ安全な化学療法や放射線治療が受けられるよう、治療体制の整備が望まれます。

肝臓は9病院です。(表2-1-4)

- 胃、乳腺、肺、子宮に対して、放射線療法が対応可能な病院は、市立半田病院と国立長寿医療研究センターです。(表2-1-4)
- 外来で化学療法を受けられる病院数は10病院です。(表2-1-5)
- 退院後、入院していた病院に通院する方は、73.8%、他院へ通院する方は4.9%、他院へ入院する方は6.8%、死亡退院は10.7%でした。(平成21年度医療実態調査)
- 平成21年度患者一日実態調査によると、がん患者の自域依存率は、46.4%で、県平均の71.5%より低くなっています。(表2-1-6)
- 市立半田病院では胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝臓がんについて、地域連携クリティカルパスを導入しています。
- がん治療時、必要に応じて周術期の口腔管理を行っています。

4 緩和ケア等

- 当医療圏には、緩和ケア病棟を有する施設はありませんが、医療用麻薬によるがん疼痛治療を実施している病院が9病院、がんに伴う精神症状のケアを実施している病院が3病院あります。(愛知県医療機能情報公表システム(平成25年度調査))
- 平成27年度、新たに開院予定の公立西知多総合病院には、20床、緩和ケア病床が整備される予定です。
- 平成24年度末の当医療圏における麻薬取扱のある薬局は137施設です。
- 通院困難ながん患者に対する在宅がん医療総合診療料の届出を行っている医療機関は32施設(平成24年1月現在)です。

- 入院治療後に、住み慣れた家庭や地域の医療機関で適切な通院治療や療養を選択できるような体制を強化していく必要があります。
- 入院治療後に、就労などの社会生活を継続しながら、外来で放射線治療や抗がん剤治療を受けられるような医療機関の体制強化や地域連携クリティカルパスの活用等による医療連携の強化を図る必要があります。

- 医療技術の進歩によりがん治療後の生存期間が大幅に改善してきたことから、治療後に通院しながら就労などの社会生活が営めるような外来緩和ケアの充実を図る必要があります。
- 末期の患者が自宅等の住み慣れた環境で療養できるよう、在宅緩和ケアの充実を図る必要があります。

【今後の方策】

- 喫煙対策などのがん予防の取組を進めるとともに、愛知県がんセンター研究所での疫学・予防研究の成果を活用し、喫煙、食生活、運動等の生活習慣ががんの発症と深く関わっていることを各種の機会を通じて、県民に周知します。
- 受動喫煙防止対策実施施設認定事業を実施することにより、受動喫煙防止対策をより

一層進めていきます。

- 質の高いがん医療が提供できるよう、県が指定するがん診療拠点病院である市立半田病院は、地域の医療機関との連携をさらに推進し、「地域がん診療連携拠点病院」の国の指定を積極的に目指します。
- がん検診受診率の向上のため、市町・職域と協力し、がん検診に関する正しい知識や必要性についての啓発や周知を行います。
- 女性が検診や治療を受けやすい環境づくりを進めていきます。
- 就労等の社会生活を継続しながら外来でがん治療や緩和ケアを受けられる体制づくりを進めていきます。

(参考図表)

表2-1-1 悪性新生物による死亡数・死亡率（人口10万対）

	知多半島医療圏		愛知県	
	死亡数	率	死亡数	率
平成20年	1,437	234.8	17,049	236.7
平成21年	1,341	218.3	16,888	233.9
平成22年	1,454	236.5	17,814	245.8
平成23年	1,423	230.7	17,596	242.3
平成24年	1,505	243.5	18,102	233.9

資料：人口動態統計

表2-1-2 主要部位がんの推計患者数（平成20年）（人）

部位	胃	大腸	肺	肝臓	前立腺	乳房	子宮	全部位計
男	304 (3,720)	243 (3,135)	326 (3,452)	97 (1,484)	152 (2,329)	1 (18)	—	1,681 (20,669)
女	127 (1,574)	172 (2,262)	99 (1,313)	57 (659)	—	201 (2,807)	76 (1,004)	1,110 (14,146)
計	431 (5,294)	415 (5,397)	425 (4,765)	154 (2,143)	152 (2,329)	202 (2,825)	76 (1,004)	2,791 (34,815)

資料：愛知県悪性新生物患者登録事業（愛知県健康福祉部）

注：推計患者数は、上皮内がんを除いた数

表中の上段は、知多半島医療圏、下段の（ ）は、愛知県全体数

全部位計は表に記載した主要部位と、それ以外の全ての部位を含むがんの推計患者数

「大腸」は、結腸、直腸S上結腸移行部、直腸を合計した数

表2-1-3 がん検診受診率（平成23年度）

	胃がん	大腸がん	乳がん	肺がん	子宮がん
知多半島医療圏	7.7	19.0	24.8	31.0	24.6
愛知県	14.6	25.0	22.1	27.1	31.3

資料：地域保健・健康増進事業報告

単位：%

表2-1-4 部位別医療機能病院数

部位	手術件数が10件以上 実施病院数	化学療法実施病院数	放射線療法実施病院数
胃	5	10	2
大腸	6	10	
乳腺	6	8	2
肺	1	6	2
子宮	1	4	2
肝臓	1	9	

資料：愛知県医療機能情報公表システム（平成25年度調査）

注：手術件数が10件以上実施病院数については、平成24年度に手術を行った病院数

表 2-1-5 外来における化学療法実施病院数

名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	計
35	3	2	9	12	7	10	9	4	9	2	11	113

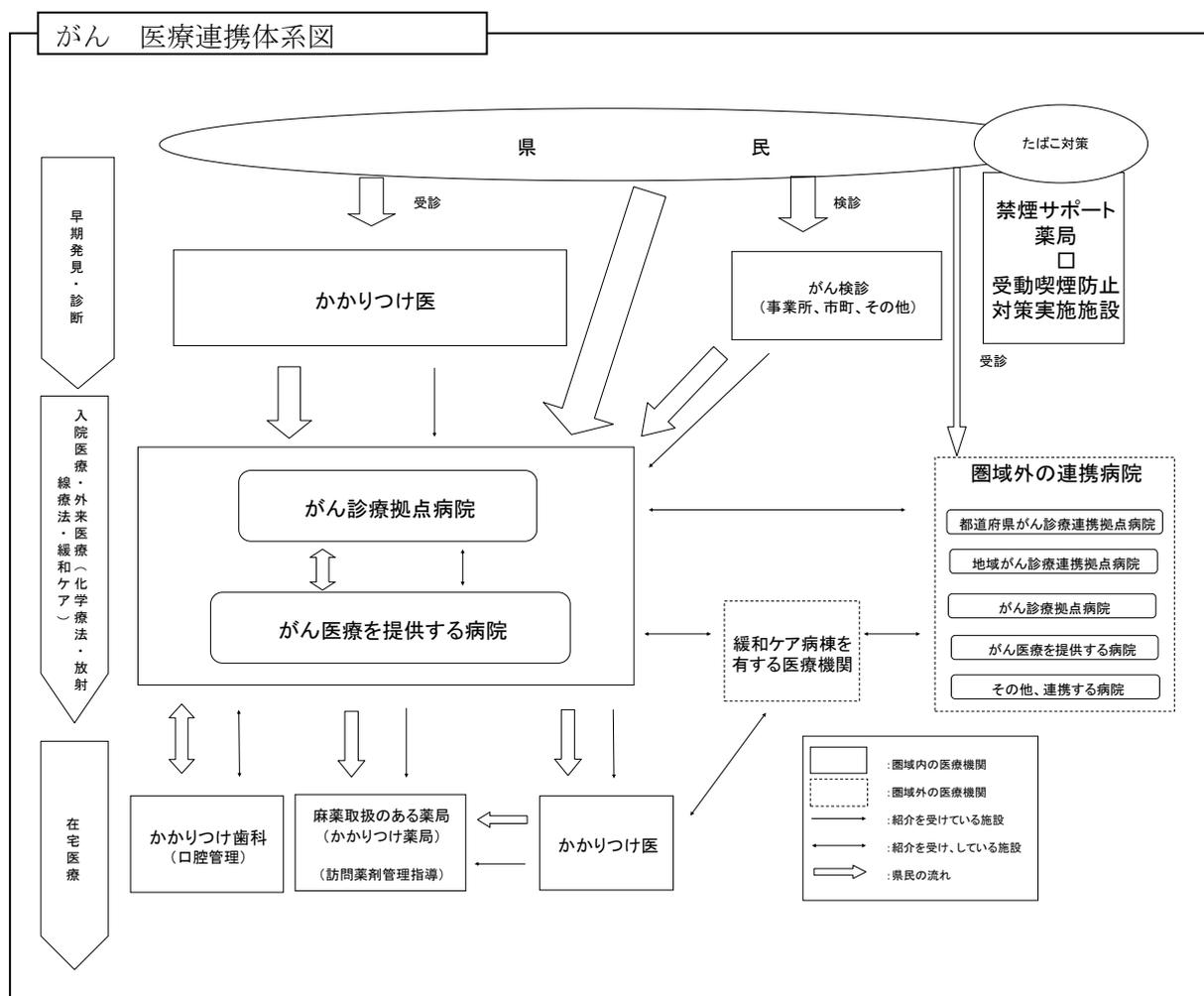
資料：愛知県医療機能情報公表システム（平成25年度調査）

表 2-1-6 がん患者の自域依存率 (平成 21 年 6 月 30 日現在)

	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県平均
自域依存率	87.8	55.4	5.8	72.6	51.3	79.3	46.4	75.2	73.3	75.0	52.1	89.6	71.5

資料：平成 21 年度患者一日実態調査（愛知県健康福祉部） 単位：%

注：自域依存率＝自医療圏入院患者数/自医療圏に住所地がある全患者数×100



<がん 医療連携体系図の説明>

- 「都道府県がん診療連携拠点病院」である県がんセンター中央病院では、本県のがん医療をリードし、地域がん診療連携拠点病院等の医療従事者に対する研修を実施してがんの専門的医療従事者の育成に努めています。
- 「地域がん診療連携拠点病院」では、手術療法・化学療法・放射線療法による集学的治療及び緩和ケア等、専門的ながん医療を提供しています。
- がん診療拠点病院とは、本県のがん診療の充実強化を図るため、厚生労働大臣が指定する病院以外で、国の指定要件を満たす高度ながん医療を提供する病院を愛知県独自に指定した病院です。
- 「がん医療を提供する病院」とは、愛知県医療機能情報公表システムにおいて部位別（5大がん＋子宮がん）に年間手術10件以上実施した病院です。
- 必要に応じて緩和ケア病棟を有する医療機関への入院が実施されます。
- 禁煙サポート薬局は、禁煙サポートに関する研修を受けた薬剤師がいる薬局です。
- 受動喫煙防止対策実施施設は、多数の者が利用する施設であり、かつ、建物内全体が禁煙で、そのことが標示してあり、屋内には灰皿が置いていない施設です。
- 麻薬取扱のある薬局は、麻薬小売業者免許を取得している薬局で、在宅で治療中の方に対し、麻薬の管理や調剤された医薬品の訪問服薬指導などを行っています。

※ 具体的な医療機関名は、県計画の別表に記載してあります。